身体部位を表す方言語彙の表示システム

山本悠人（甲南大学知能情報学部学部生）北村達也（甲南大学知能情報学部）
岩城裕之（高知大学教育学部）今村かほる（弘前学院大学文学部）

1 背景と目的

- EPAにより日本語を母語としない看護師や介護福祉士が日本国内にて就労するようになっている
- 身体の部位やその症状を現す方言語彙がコミュニケーションの障壁となっている
  - 看護研修生の88 %，介護研修生の75 %が方言で困った経験あり (今村ら, 2015)
  - 日本語母語話者同士であっても障壁となり得る (今村ら, 2013) (岩城, 2015)

日本語を母語としない看護師や介護福祉士のために身体語彙を直感的に検索できるアプリケーションを開発（日本語母語話者にも有用）

2 方言支援ツール (今村ら, 2014)

- 身体語彙図と医療・福祉関係方言語彙集から成る
- ホームページ http://hougen-i.com/ にて公開されている
- PDFファイルとして提供されている
- 紙ベースであるため，検索に不自由が生じる場合がある
- 直感的に利用できるアプリケーションが求められている

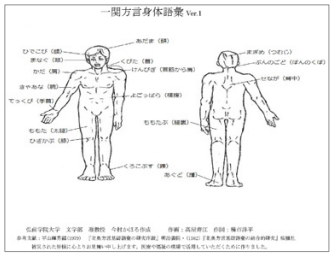


図1：身体語彙図の例 (岩手県一関地区)

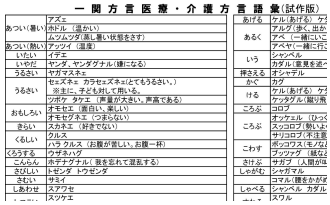
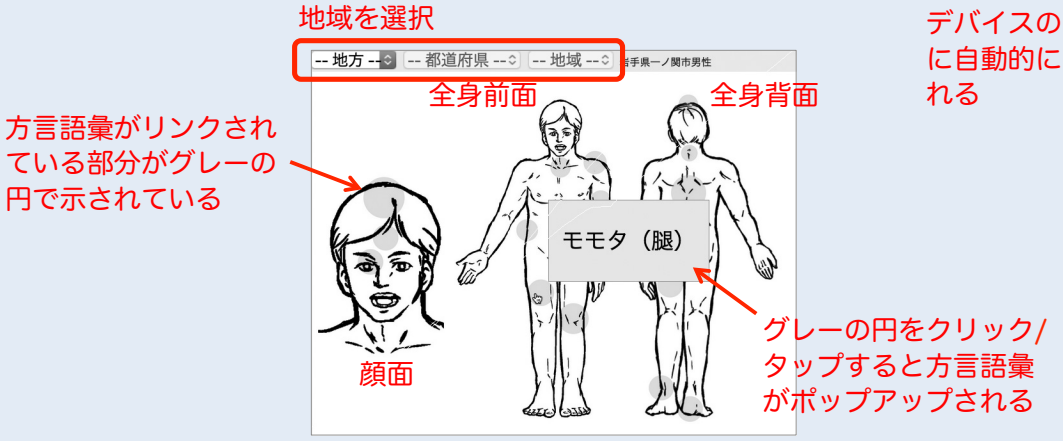


図2：医療・介護方言語彙の例 (岩手県一関地区)

3 提案システム

- PCやタブレットで利用
- Webブラウザから利用するので，OSに依存しない
- インターネット接続が必要
- 画像サイズは画面サイズに自動調節される



謝辞　本研究の一部は平成27年度科研費基盤研究(B)(24320084)および私立大学等経常費補助金特別補助「大学間連携等による共同研究」の支援を得て行われた